

## 日本学術会議主催 学術フォーラム

「STEM 分野の未来を支える多様性とは：教育・探究・キャリアをつなぐ対話  
-- 理系の男女差を解決する鍵は、小中教育？ 家庭？ 地域？」

<https://www.scj.go.jp/ja/event/2026/392-s-0221.html>

## 新永 浩子（鹿児島大学）

2026年2月21日、東京都港区の日本学術会議講堂において、上記の学術フォーラムを開催いたしました（写真1）。

私は日本学術会議の連携会員として、物理学委員会の下に設置された物理教育分科会の委員長を務めております。本フォーラムは、同分科会として企画・立案し、関係者の皆様とともに運営いたしました（写真2）。（当日の発表資料、および録画アーカイブは、上記ウェブページからアクセスできます。）

皆さんは、OECD加盟国が実施するPISA学力調査をご存知でしょうか。15歳を対象に、数学・科学・読解力などの到達度を国際比較する調査です。日本の15歳の女子は、数学・理科ともに男子と同様に世界トップクラスの学力を示す一方で、進学や就業の段階に進むと、理工系（STEM）分野を選択しにくい状況が続いており、STEM分野で活躍する女性は依然として限られています。男子が理系を選ぶ際には理由を問われにくいのに対し、女子の場合には「なぜ理系なのか」と問われやすいことも指摘されています。さらに高校段階では、多くの学校で導入されている文理選択が大きな分岐点となり、理数に関心を持っていた女子であっても、周囲の期待や進路情報の偏り等を受けて、いわゆる「文系」へ進むケースが少なくありません。その結果、日本ではOECD諸国の中でも理工系を選ぶ女子が少ない状況にあります。なお、STEM分野で女性が少ない傾向は日本に限らず諸外国でも見られますが、日本は特に課題が大きいと認識されています。



写真1：学術フォーラム登壇者、スタッフ一同の集合写真。当日は小・中・高・大学の教育現場で取り組みを進める教員、企業の女性研究者に加えて、文部科学省、内閣府を代表して、奥課長、関口課長補佐にもご登壇いただきました。

一方で、近年、日本では理工系人材の需要が一層高まっています。こうした中で女性人材が十分に活かされていない現状は、学協会・教育機関・企業においても危機感をもって受け止められており、鹿児島大学大学院理工学研究科 天の川銀河研究センターをはじめ、30の学協会・団体より本フォーラムにご後援を賜りました（末尾にご後援団体一覧を添付しております）。

また、STEM分野の男女比に加えて、世界的な賃金格差の問題も無視できません。日本では、同じ仕事に従事していても、平均的に女性の賃金が男性より2割ほど低い状況が続いています。賃金格差が大きい国ほど労働生産性が低い可能性があることも指摘されており、逆に言えば、公正な処遇と多様な人材の活躍を促す環境整備が進めば、労働生産性の向上や、国としての競争力強化にもつながり得ます。

本フォーラムでは、小・中・高・大学の教育現場で取り組みを進める教員に加え、企業の立場として日立製作所で女性研究者としてご活躍の鈴木様、さらに政策の立場から、文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課長の奥 篤史様、内閣府 男女共同参画局 推進課 課長補佐の関口 隆様にもご登壇いただきました。国としての取り組みと、教育現場・企業・研究現場の実態を接続し、議論できた点は大きな成果でした。午前は、女子が理工系分野から離脱してしまう背景について、構造的・文化的要因を中心に議論し、午後は教育実践・探究活動・キャリア像の提示など具体的な方策に焦点を当てました。登壇資料等の詳細は、フォーラム Web サイトよりご覧いただけます。

もう一点、博士後期課程への進学、博士号取得を考えている方に朗報です。当日ご講演いただきました日立の鈴木さんは、就職してから博士号を取得され、博士号の分野については、自由に選択することができたとのこと。博士後期課程への進学は、日本ではSPRING（文部科学省：次世代研究者挑戦的研究プログラム）や特別研究員制度（DC：日本学術振興会）がありますが、企業に就職してから、博士号をとる選択肢もあるということを知っていただければと思います。

本学からは私に加え、博士後期課程3年の城戸未宇さんが登壇し、城戸さんには、現役の女子博士課程学生と

して、研究継続に必要な支援や今後望まれる環境整備についてご発表いただきました。また、SSH校の先進的取り組みとして、お茶の水女子大学附属高等学校の十九浦先生、池田学園（鹿児島県）の山崎副校長先生にもご登壇いただき、教育実践例を共有いただきました。

当日は全国から450名の参加登録をいただき、多角的で実践的な議論を行うことができました。当日の議論の様子は日本学術会議公式YouTubeチャンネルでご視聴いただけます。お時間が許す際にぜひご覧いただき、ご意見・コメントをお寄せいただければ幸いです。

現在、本フォーラムの講演内容と議論を取りまとめ、出版に向けた準備を進めております。進展がありましたら、改めてご報告申し上げます。

- 後援： 文部科学省  
 日本学術振興会  
 日本私立中学高等学校連合会  
 学校法人池田学園池田小学校・中学校・高等学校  
 国立大学法人東京科学大学  
 学校法人法政大学  
 学校法人日本女子大学理学部  
 国立大学法人お茶の水女子大学理学部  
 国立大学法人東北大学大学院理学研究科  
 国立大学法人東京大学大学院数理科学研究科  
 国立大学法人東京大学大学院理学研究科物理学専攻  
 国立大学法人東京大学大学院理学研究科天文学教育研究センター  
 国立大学法人東京大学物性研究所  
 国立大学法人東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構  
 国立大学法人山口大学時間学研究所  
 国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター  
 国立大学法人鹿児島大学理工学研究科天の川銀河研究センター  
 大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台  
 国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器科学研究センター  
 一般社団法人日本科学教育学会  
 公益社団法人日本天文学会  
 公益社団法人日本数学教育学会  
 一般社団法人男女共同参画学協会連絡会  
 一般社団法人日本数学会  
 公益社団法人日本地球惑星科学連合  
 一般社団法人日本物理学会  
 一般社団法人日本物理教育学会  
 一般社団法人九州未来共創  
 一般社団法人日本航空宇宙学会  
 一般社団法人宇宙甲子園実行委員会

我が国におけるSTEM(科学・技術・工学・数学)への女子の進出は、世界的にも遅く低く、長年わたる社会的課題となっています。進学率や就業率といった量的側面にとどまらず、その質には、学習から積み重ねる「理数科目への志す意識」や、無意識の偏見、情報・体験の不足、そして将来像の不明確さの懸念も残っています。こうした課題は、個々の進路選択の段階ではなく、教育制度・社会文化・キャリア設計を含む構造的な課題としてとらえる必要があります。

本フォーラムでは、まず教育心理学会の前身から、女子学生がSTEM分野において培える心理的ハードルや、進路からの「懸念」が生じるメカニズムについて明らかにします。その上で、女子中高一貫校やSSH学校における具体的な教育実践を紹介し、主に「面白さ」や「自分ごと」として科学を学べるための取組を共有します。さらに、各種形式での探究型学習や大学や学部生主体の科学体験プログラム、物理学・数学・情報科学など多様な分野における先進的な取り組みを通じて、STEM分野における女子の活躍と社会とのつながりを再構築します。

またAIや宇宙、医療、課題解決といった分野で活躍するSTEM人材の職業像を紹介し、「理系＝研究者」「女子は理系に向かない」といった古いイメージを脱し、STEM分野が切り拓く新たな職業の可能性についても紹介し、理工系領域の魅力を再提示します。最後はパネルディスカッションでは、教育・社会・ジェンダー・キャリアといった多面的な視点から、誰もがSTEMを自由に選び、活躍できる社会の実現とその課題と可能性を議論します。

ハイブリッド開催 <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0358.html>   
 参加費無料 申込み締切 令和8年2月17日(水) 事前参加登録をお願いします。

主催 日本学術会議 問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL 03-3403-6295

コーディネーター  
 市川 浩子 (日本学術会議第三部委員/東北大学大学院理学研究科教授)  
 新永 浩子 (日本学術会議第三部委員/鹿児島大学工学部理学系助教授)  
 伊藤 由佳理 (日本学術会議第三部委員/東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授・副機構長)  
 島岡 まな (日本学術会議第一一部委員/大阪大学大学院理学研究科教授)  
 三枝 慎子 (日本学術会議第三部委員・副会長/国立研究開発法人国立環境研究所理事)

スケジュール

10:00 ~ 10:30	受付
10:30 ~ 10:35	開会挨拶 眞 重史 (文部科学省 科学技術・学術政策局長 人材政策課長)
10:35 ~ 10:40	開会挨拶 新永 浩子 (日本学術会議第三部委員/鹿児島大学工学部理学系助教授)
10:40 ~ 12:30	第I部：同時開催 - 題名の異議を認めず 司会 市川 浩子 (日本学術会議第三部委員/東北大学大学院理学研究科教授) 10:40 ~ 11:10 講演1 「科学技術・学術分野の男女共同参画の現状と内閣府における取組」 関口 隆 (内閣府 男女共同参画局 推進課 課長補佐) (講演20分 講演10分質疑応答) 11:10 ~ 11:40 講演2 「中学生の『数学嫌い』、『理科嫌い』は本音か?」 内田 悠紀 (筑波大学大学院教育研究科助教授) (25分講演5分質疑応答) 11:40 ~ 12:10 講演3 「STEM分野の女性の進出：学習者から高等教育～社会へ」 白井 恵美子 (日本学術会議第一一部委員/一橋大学経済学研究科教授) (25分講演5分質疑応答) 12:10 ~ 12:30 第I部 ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員
12:30 ~ 13:30	休憩
13:30 ~ 14:45	第II部：学校教育現場からの実証報告 司会 笠 潤平 (日本学術会議第三部委員/早川大学名誉教授) 13:30 ~ 14:00 講演4 「数学の魅力を伝える取組を目指して～学校設定科目『数学探究』での取り組みを中心に～」 十九浦 美里 (お茶の水女子大学附属高等学校 教諭) (25分講演5分質疑応答) 14:00 ~ 14:30 講演5 「地方の小中高一貫校が目指す『ローバルな教育』— 夢の扉をアジエクトの実験から」 山崎 巧 (池田学園中学校・高等学校 副校長) (25分講演5分質疑応答) 14:30 ~ 14:45 第II部 ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員
14:45 ~ 14:55	休憩
14:55 ~ 15:35	第III部：探究と体験の中で育つSTEMのよみ「自ら問い、つながる学びへ」 司会 藤井 真一 (日本学術会議第三部委員/公財) 日本学術振興会理事長/情報・システム技術機構独立研究センター所長(特別) 14:55 ~ 15:25 講演6 「『算学』に見る体験型STEM教育の可能性」 山本 文子 (筑波大学大学院理学研究科) (25分講演5分質疑応答) 15:25 ~ 15:35 第III部：未来を描く - STEM分野の新しい職業像「理工系の仕事」をもっと自由に 司会 伊藤 由佳理 (日本学術会議第三部委員/東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授・副機構長) 15:35 ~ 16:05 講演7 「STEMからSTEMへ— 多様性がつくるイノベーションと未来のキャリア」 鈴木 結子 (日本学術会議第三部委員/株式会社日立製作所専門職/研究開発グループリーダー) (25分講演5分質疑応答) 16:05 ~ 16:35 第III部 ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員
16:35 ~ 16:45	休憩
16:45 ~ 17:30	第IV部：パネルディスカッション コーディネーター 新永 浩子 (日本学術会議第三部委員/鹿児島大学工学部理学系助教授) パネリスト 横山 広美 (日本学術会議第三部委員/東京大学 国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 学術政策学術 教授) 藤原 伸也 (日本学術会議第三部委員/東京大学教育本部特別委員/筑波大学教職員事務局教授) 島岡 まな (日本学術会議第一一部委員/大阪大学大学院理学研究科教授) 城戸 未生 (鹿児島大学大学院工学研究科博士後期課程3年 日本学術振興会特別研究員 (DC2)) 眞 重史 (文部科学省 科学技術・学術政策局長 人材政策課長) 17:10 ~ 17:30 第IV部 ディスカッション・補足コメント 登壇者+参加者全員 17:30 ~ 17:35 閉会挨拶 藤原 伸也 (日本学術会議第三部委員/東京大学大学院教育本部特別委員/筑波大学教職員事務局教授)

写真2：学術フォーラムポスター